

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣

帰国報告

東京大学文学部 4年

天明麻衣子

7/5～8/1 11th INEX Summer Program , Costa Rica.

①大学(ULACIT)での授業

「コスタリカで、持続可能な発展を遂げるには」をテーマに、討論やグループワークを重ねて理解を深めた。例えば、コスタリカにおけるサステナビリティを志向する企業として、チキータというバナナ農園を調べた。そこでは、熱帯林にすむ生き物を保護する取り組みを行ったり、バナナの葉や幹といったゴミを堆肥に再利用している。また、労働者に平均より高い賃金を与え、病院や学校を建設するなど、労働面の改善も図っている。

また、観光はコスタリカの重要な産業である。しかし、観光業を振興させることと、自然を守ることを両立させるのは非常に難しいことも事実だ。授業では、大型ホテル建設による熱帯雨林の破壊や、ホテルの汚水が海に排出されることによる海の汚染について学んだ。そして、現在注目されているエコツーリズムについても学んだ。コスタリカでは、軍隊を廃止した代わりに、軍事費を教育や環境のために使っているという。そして、地元の生徒や近隣の住民が協力して自然環境の保護にあたり、教育により諸外国語や環境の知識を身に付けた人たちが、今度は外国人観光客に自国の自然環境の素晴らしさを伝えているという。これは、コスタリカが環境を守りつつ経済的に発展していく道として、今後更に重要になってくるのではないかと思う。

②訪問

実際に、以下の施設を見学することができた。

- ・ FLOREX…環境に優しい洗剤を製造している会社である。洗剤は28日で生分解され、発がん物質などを含んでいない。また、容器もプラスチックから生分解される容器に替えるなど、環境に負荷のかからないよう方法で製品を提供するよう工夫している。

- ・ Dole…世界的なバナナ農園。バナナの収穫、運搬法を実際に農園で教わったり、洗浄される過程を見学した。労働者はニカラグアからの出稼ぎ者が多く、周辺には彼らのための宿舎も置かれていた。



・風力発電所…アレナル火山に行く途中の、小高い丘の上に建設されている。風力発電は、コスタリカ全体の発電量の2%を占めている。バードストライクなどの問題もあるが、より発電量を増やす努力が必要だと思った。



・インビオ公園（生物多様性研究所）…サンホセ郊外にある、小さな公園のようなところ。普段なかなか野生では見られないワニ、ヘビ、カエルや蝶、様々な種類の植物が集められていて、興味深かった。コスタリカは生物多様性の国と呼ばれているが、その理由がわかったような気がした。



③講演…ゲストスピーカーをお招きして、お話を伺った。

- ・ The Earth Charter
- ・ Rainforest Alliance
- ・ ICE（コスタリカの国営電力会社）

④国立公園への小旅行…コスタリカには多くの国立公園がある。

小旅行は、主にコスタリカの重要な収入源である観光業を実際に体験し、国立公園の豊かな自然を味わうために行われた。観光業の振興に当たっては、熱帯林の伐採や汚水の海への流出などが問題となっており、自然の生態系とのバランスがとれた、サステナブルなツーリズムの在り方が模索されている。

主な行き先と成果を挙げておく。写真については、治安のあまり良くない地域が多く、（特にカウイータ国立公園周辺など）むやみにカメラを手にしていると強奪される恐れがあったため、数が多くないのはご容赦いただきたい。（国立公園とはいえ人気のない場所、人目につかない場所は注意が必要なのだ）

・ブラウリオ・カリージョ国立公園一周辺の川でラフティングをした。首都サンホセからそう遠くない場所にも関わらず水は澄んでおり、ここでのラフティングは人気があるようだ。スリル満点なので、これからの観光業には欠かせない存在になるであろう。河

原で休んでいると、すぐそばのもっと茶色い水たまりのようなところで、地元の子供らが遊んでいた。私たちの昼食の食べ残しをもらいに来ていたのが印象的だった。



・アレナル火山国立公園—コスタリカにも、多くの火山があり、たまに爆発して煙が上がっているのがサンホセからも見える。アレナル火山も活火山の一つだ。有毒なガスのため近づくことはできないが、周辺には温泉がわいており、そこにつかることができた。日本人にしてみれば温度は低めだが、野趣あふれる露天風呂といった感じで悪くなかった。泊まりで訪れる人が多いのもうなずける。雨が降っていたため写真は撮れなかった。



・カウイータ国立公園—カリブ海沿岸にある。蒸し暑い気候で、涼しいサンホセとはまた違った印象だ。街には黒人が多く、(サンホセではあまり黒人を見かけない)、やはり違う場所だなという感じだ。生活水準は低く、治安はおそらく今回行った場所の中で一番悪かった。観光客のお金が、うまく地元住民に渡っていないように思えた。海岸もあるが、波が高くビーチもあまりきれいではなく野犬がうろついたりするので、私はあまり魅力的に感じなかった。国立公園自体もこじんまりしていて、少しひなびた印象だ。



・マヌエル・アントニオ国立公園—コスタリカでもっとも有名な国立公園。一度に公園内に滞在できる人数が制限されている。園内はゴミのポイ捨て等がないよう細かく管理されており、とても手入れが行き届いている印象だ。ビーチもとても美しかった。園内では猿が何種類か間近で見られた。サンホセからバスで片道5時間くらいかかるのが難点ではある。途中でハコという街を通った。かつてはサーファーで賑わった街だが、大型ホテルの建設が相次ぎ、その汚水が海に流出し続けたため、今では悪臭漂う海になってしまった。当然観光客は激減し、廃墟のような街になっていた。観光が自然を破壊し、それがまた観光に打撃を与えるという悪循環を実際に目撃し、この国が発展する難しさを痛感した。

